

(メッセ海外通信 2011年10→12月号掲載記事)

～青島人と日本人～
青島市に赴任して感じたこと

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
三浦 万季

本年8月末より、中国青島市に派遣され、気付けばすでに1か月が過ぎました。初めての寄稿にあたり、まず、青島市に来てから現在までの私なりの所感についてお伝えしたいと思います。

青島市は山東半島の南端に位置し、総面積は10,654平方キロメートル、市街地面積は1,159平方キロメートルです。青島市の総人口は約850万人、中心市街地だけで約350万人です。中心市街地は高層ビルが建ち並び、どこを見渡しても建設中の建物を目にすることができます。青島市は現在も発展し続ける大都市と言えます。その一方で、高層ビル群を抜けるとすぐに海の青と木々の緑が異国風の建築群と調和した非常に美しい景観を楽しむことができ、ゴルフ場、劇場、水族館など、レジャー施設も充実しています。

交通の便もよく、バス運賃は市内に限れば1元の均一料金で本数も多く、タクシー初乗り運賃も10元ととても安価です。市街地では何でも手に入るし、食料品価格や各種サービスなどは日本より安く、非常に生活しやすいという印象を受けました。これについては、私の予想よりはるかに色々なものが充実していることにとっても驚きました。



青島市中心市街地の風景

では、大都市である青島市に住む人々の気質はどうでしょうか。

私が初めて青島市に到着したばかりの時に、青島の人々の車の運転が非常に荒いことにショックを受けました。いたるところに車を止め、ことあるごとにクラクションを鳴らし、かなりのスピードで車間もないのに無理やり割り込む。はじめはまったくの無秩序に見えました。しかし、青島の人々の運転を見慣れてくると、少し様子が違うことに気が付きました。日本では、速度が遅く車間も広くなければ割り込みません。青島の人々は私たち日本人が入れないと思うような速度や車間でもすっと割り込みます。全身が硬直しますが、“見事”としか言いようがありません。ですが、これが青島でのごく普通のタイミングのようです。青島人には青島人のタイミングというものがあり、ただ、そのタイミングが私たち日本人の感覚と違うだけのことなのかもしれません。また、皆、好き勝手なように運転しているように見えますが、同時に駄目なら駄目とクラクションではっきり主張します。日本人は言われなくても秩序を守る、だからほとんど自分の主張をしなくてもいい。反対に、青島の人々はしたいことはする、でも駄目なら駄目としっかり言いますし、言われたことにより皆が秩序を守ります。それに至るまでの過程は全く正反対ですが、どちらも最終的にはその土地にあった秩序が守られていることに、非常に興味深く感じました。

また、日本人は概して親切ですが、押しつけがましいのもいけないと一步引くことがあります。この“心づかい”“奥ゆかしさ”“遠慮深さ”は日本人の素晴らしい気質です。では、青島の人々はどうでしょうか。この一か月の間に何度となくバスに乗車しましたが、年配の方が乗車して来た時に空席がなければ、必ず席を譲る人がいます。乗車してきたらすぐに誰かが立ち上がり声をかけるのです。私は、それが青島市に赴任して一番うれしい驚きでした。また、私がバスの座席が空いたことに気付かずに立っていると、近くに座っていた女性が、座席が空いたことを教えてくれました。概して、青島の人々もとても親切です。時に、こちらが申し訳なく思ってしまうほどに親切にしてくれます。言葉が通じなくても、突然路上で声をかけても、心から親身になって皆が助けてくれます。そして、最後は互いに笑顔で別れます。郷に入っては郷に従え。これが青島流なら、私も遠慮せず心尽くして青島の人々に接していきたいと感じました。

中国青島市を訪れてみて、そして暮らしてみても、初めて気付かされることも多い一か月間でした。特に、青島の人々は、したいことはする、言いたいことは言う、でも心が温かい、そんな人々だと感じずにはられません。これから2年間の中国青島市での生活の中で、日本人とは違う良さや、面白さを持つ青島の人々についてお伝えしていきたいと思えます。